

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 82 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 82 回 : 2017 年 12 月 26 日 (火) 13:30~16:15

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 872 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 牟田, 岡野, 石田, 岩谷, 喜多, 田中,
小谷, 佐藤 (輝), 黒岩, 小森, 谷口 (14 名)

(常時参加者) 島崎, 丹野, 友澤 (3 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-82-1 第 81 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-82-2 停止時 PRA 標準改定案に係るコメントへの対応

P4SC-82-3-1 内的事象 L1PRA 標準 議論検討用 (抜粋)

P4SC-82-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用 (抜粋)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 14 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 81 回議事録の確認

資料 P4SC-82-1 を用いて第 81 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 停止時 PRA 標準改定案に係るコメントへの対応

資料 P4SC-82-2 により, 停止時 PRA 標準改定案の標準委員会決議投票でのコメント対応に関する標準委員会での議論について説明があり, 委員会議論におけるコメントへの対応について確認され, 専門部会に報告することとなった。

また, 解説 2 における使用済燃料の評価では, 個別の条件を考慮の上 PRA を選択できるとの趣旨であり, 他のリスク評価法を排除するものではない旨であることを確認した。

(4) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-82-3-1 と資料 P4SC-82-3-2 により、箇条 12 パラメータの作成と箇条 13 事故シーケンスの定量化、及び附属書・解説を題材として、統合・性能規定化の標準構成に関して検討し、主に以下の議論があった。

・ 箇条 12 パラメータの作成

- －高次要求に関し、目的が共通であれば目的を始めに記載し、要求事項を個別に箇条書きにするなど、各箇条の状況に合った規定振りを検討する。
- －パラメータの検討における分析対象事象は「特定する」より「把握する」が適切と考えられる。箇条内での要求と箇条タイトルを整合させていく。
- －共通原因故障のパラメータ推定の規定振りは、故障率パラメータとの整合やパラメータ推定実施基準との整合などのバランスを考慮していく。

・ 箇条 13 事故シーケンスの定量化

- －特に重要度解析や感度解析に関しては、実施を必須とするか評価の目的に応じた対応とするか今後を確認・調整していく。
- －附属書（規定）の内容については、米国標準のように本体規定とするか、規定内容により扱いを使い分けるかなど、他の箇条とのバランスも考慮して検討する。
- －回復操作の取扱い部分は、箇条 10 システム解析で規定しておく方が適切と考えられるため、移設することを考慮する。

・ 附属書・解説の構成

- －制改定の趣旨に記載の PRA の意義などに関する部分は、まえがきに反映するなど構成を検討する。
- －評価手順フローに関しては、性能規定と手順を切り分ける意義も含めて、関連部分を技術レポートの始めに記載する構成で検討する。
- －除外・スクリーニングに関する附属書・解説部分については、定量的な記載部分などの更新検討などを行い易くする意義も含めて、技術レポートとする構成で検討する。
- －この他、技術的内容を主体とする解説は、技術レポート化していくことを検討する。

(5) スケジュール、その他

標準統合性能化の構成検討である Step1 については、今回検討により一段落となったため、次回以降は各箇条の内容について検討する Step2 に移行し、合わせて英文検討も進める。Step1 議論を反映した必要となる検討資料を事務局で用意する。

今年度の講習会について、出力運転時のレベル 1PRA 標準を対象に来年 2 月 2 日に開催することを確認した。

次回分科会は 2 月 14 日 PM での予定とする。

以上